

訪日客で経常黒字拡大

今後「数兆円規模」の見方も

訪日外国人の急増を背景に、旅行収支の黒字が拡大している。財務省が10日公表した2015年度上期（4～9月）の旅行収支は6085億円の黒字。14年度上期の128億円の赤字、同下期の2679億円の黒字から改善が進み、半期ベースでは比較可能な1996年以降で最高になった。今後も訪日外国人の増加が見込まれ、旅行収支の黒字が数兆円規模に膨らむとの見方もある。

旅行収支は改善が続いている



15年度上期の経常収支は8兆6938億円の黒字。前年同期の4・3倍で、サービス収支の赤字小は旅行収支の黒字が増

が過去最少になったことなどが寄与した。

サービス収支の赤字縮

小は旅行収支の黒字が増

えた影響が大きい。旅行収支は日本を訪れた外国人が使ったお金から、日本人が海外で使ったお金を引いて求める。15年度上期の訪日外国人数は1035万人と前年同期比で50・9%増えた。

SMB C日興証券の宮前耕也シニアエコノミストは訪日外国人数が年3000万人に増えると、旅行収支の黒字が約4兆円、4000万人で約6兆円になると試算する。

経常収支の黒字の3・4割に相当する。政府は20年に2000万人としている訪日外国人数の目標引き上げを検討中で、日本の稼ぐ力の柱の一つになる可能性がある。